

大阪府景気観測調査結果

2019年7～9月期

大阪産業経済リサーチ&デザインセンター

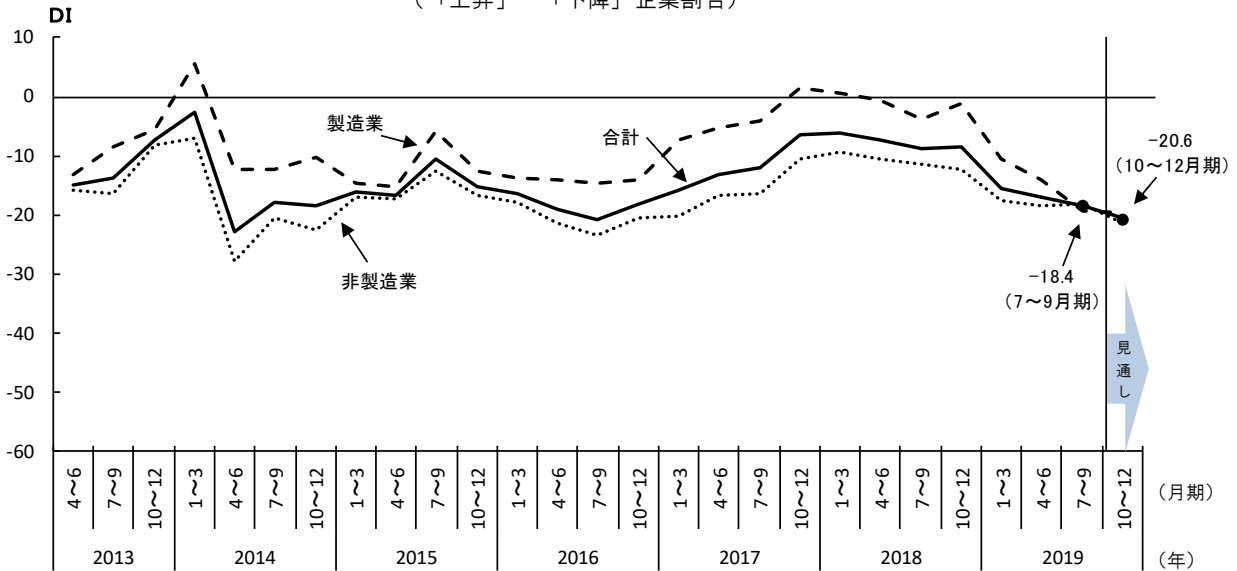
《 詳細は大阪府ホームページに掲載しています。 <http://www.pref.osaka.lg.jp/aid/sangyou/keikikansoku.html> 》

大阪府商工労働部（大阪産業経済リサーチ&デザインセンター）では、府内企業を対象として四半期毎に、大阪市と協力して景気観測調査を実施しております。2019年7～9月期の調査結果の概要は次のとおりです。

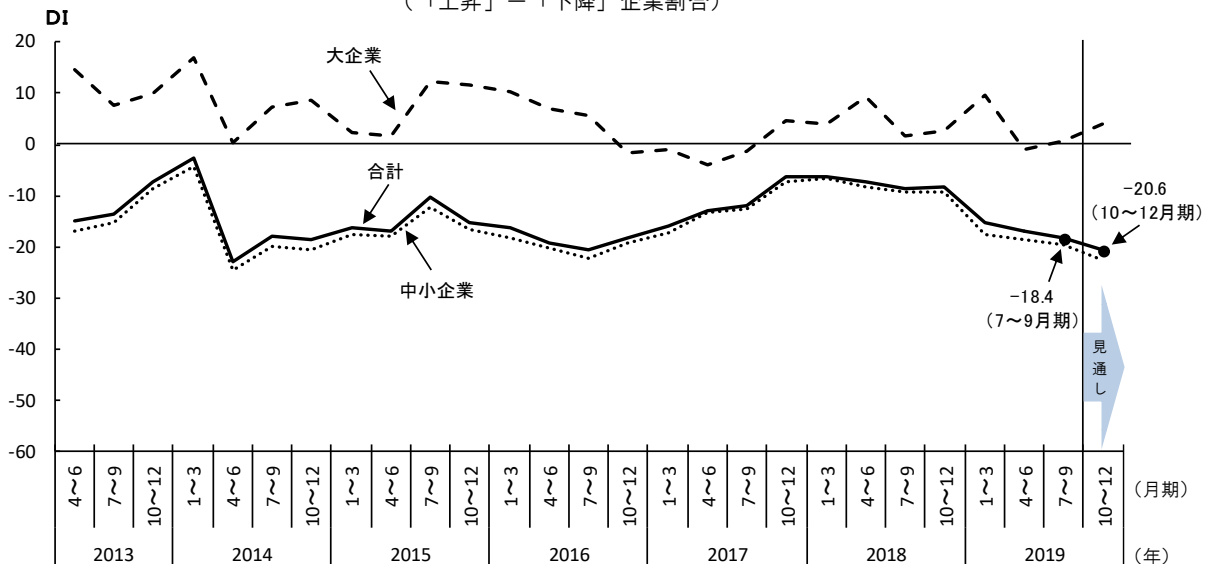
【景気は、弱い動きの兆しがみられる】

1. 今期の業況判断DIは全産業で3期連続の悪化となった。来期の業況も全産業で2012年10～12月期ぶりの低水準となる見通しであることから、景気は弱い動きの兆しがみられる。

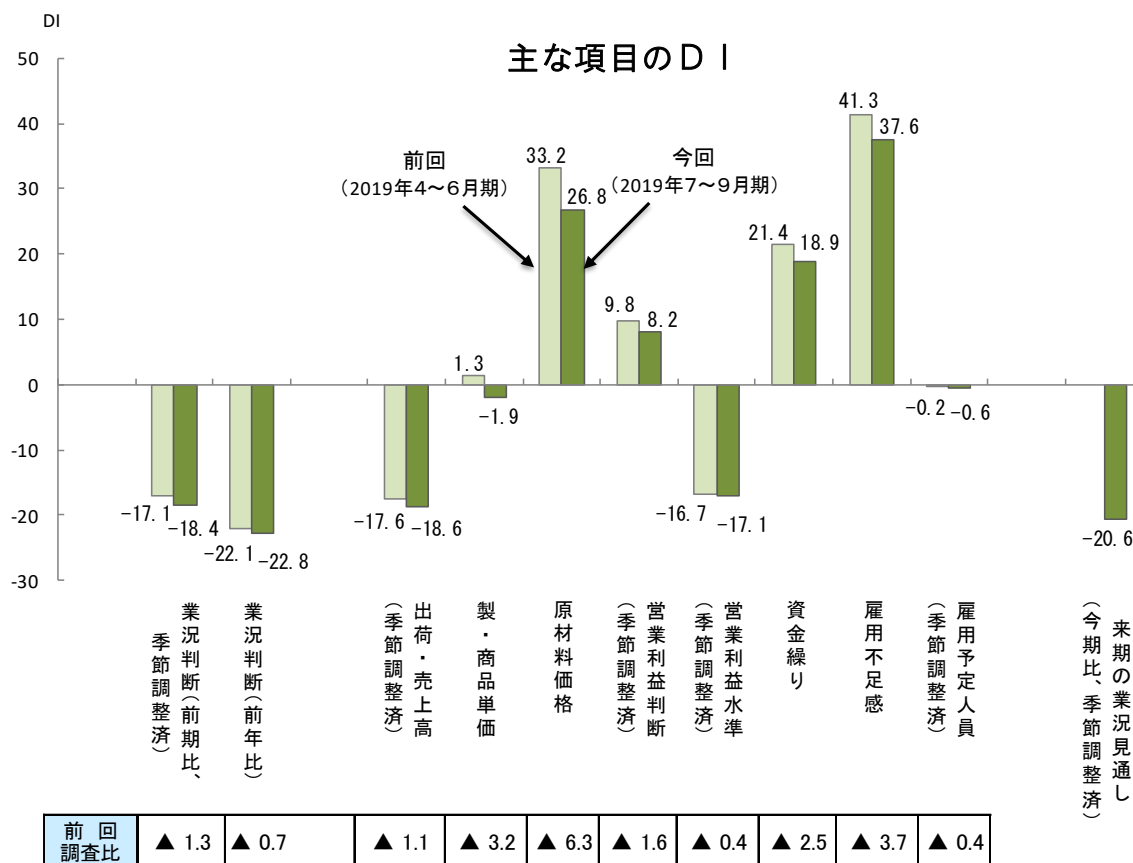
業況判断DIの推移（前期比、季節調整済、製造業・非製造業別）
（「上昇」－「下降」企業割合）



業況判断DIの推移（前期比、季節調整済、大企業・中小企業別）
（「上昇」－「下降」企業割合）



2. 主な項目のD Iをみると、出荷・売上高D Iは弱含みで推移している。製・商品単価D Iは8期ぶりのマイナス、原材料価格は業種・規模を問わず下落し、D Iは3期連続の下落となった。営業利益判断D Iは13期連続のプラス水準、営業利益水準D Iは横ばいで推移している。資金繰りD Iは製造業で上昇したものの全体では低下となった。雇用不足感は緩和が続き、雇用予定人員D Iが2期連続マイナスとなるなど、一服感がみられる。



※D Iは「上昇又は増加等の企業割合(%)」から「下降又は減少等の企業割合(%)」を差し引いたもので、プラスは上昇・増加・黒字基調・順調等の企業割合が上回り、マイナスは下降・減少・赤字基調・窮屈等の企業割合が上回ったことを示す。

3. 2019年10~12月期の業況判断D Iは、大企業で前期比上昇も、全体では低下する見通し。

業況判断D Iの推移

年 月 期	2017			2018				2019			
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
製造業	-5.4	-3.9	1.5	0.5	-0.7	-3.7	-1.1	-10.6	-14.1	-19.3	-19.5
非製造業	-16.7	-16.3	-10.5	-9.3	-10.6	-11.4	-12.2	-17.5	-18.4	-18.1	-21.5
大企業	-4.0	-1.4	4.7	4.1	9.4	1.5	2.6	9.6	-0.9	0.5	4.0
中小企業	-13.3	-12.5	-7.2	-6.7	-8.4	-9.2	-9.3	-17.7	-18.5	-19.4	-22.7
合計	-13.0	-12.0	-6.3	-6.1	-7.3	-8.7	-8.5	-15.4	-17.1	-18.4	-20.6

来 期
見 通 し